

三菱電機 **ビル用** エアコン

圧力計

PAC-KS65PG


取付説明書（販売店・工事店様用）


WT06317X02

※一般的な室外ユニット据付けに関する内容は、室外ユニット本体に添付の据付説明書に従ってください。

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度

 **注意** 取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される危害、損害の程度

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ◆お使いになる方は、この本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

一般事項

警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- ◆使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- ◆法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。




特殊環境では、使用しないこと。

- ◆油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



取付けをする場合、主電源を切ること。


- ◆ けが・感電のおそれあり。



感電注意

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。


- ◆ 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



やけど注意

据付・点検・修理をする場合、周囲の安全を確認すること。(子どもを近づけないこと)


- ◆ 工具などが落下した場合、けがのおそれあり。



指示を実行

換気をよくすること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。




換気を実行

⚠ 注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。


- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

保護具を身に付けて操作すること。


- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



けが注意

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。


- ◆ 運転停止から5分以上待つこと。
- ◆ ユニットが故障し、水漏れにより家財が濡れるおそれあり。



禁止

保護具を身につけて作業すること。


- ◆ 保護具を付けずにけがのおそれあり。



指示を実行

部品端面に触れないこと。

- ◆ けが・感電・故障のおそれあり。




接触禁止

据付工事をするとき

⚠ 警告

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところに設置しないこと。


- ◆ 可燃性ガスがユニットの周囲にたまった場合、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

冷媒が漏れた場合の限界濃度対策を行うこと。


- ◆ 限界濃度を超えないための対策は、弊社代理店と相談すること。
- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。(ガス漏れ検知器の設置をすすめます。)



指示を実行

梱包材を処理すること。


- ◆ 梱包材で遊んだ場合、窒息事故のおそれあり。
- ◆ 破棄すること。



指示を実行

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。




指示を実行

配管工事をするとき

⚠ 警告

冷媒が漏れていないことを確認すること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



指示を実行

移設・修理をするときに

警告

移設・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。分解・改造はしないこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

修理をした場合、部品を元通り取付けること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

注意

販売店または専門業者が取付説明書に従って取付けを行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

お願い

据付・点検・修理をする場合、適切な工具を使用してください。

- ◆ 工具が適切でない場合、機器損傷のおそれあり。

工具類の管理は注意してください。

- ◆ チャージングホース・フレア加工具にほこり・ゴミ・水分が付着した場合、冷媒回路内に混入し、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

1. 部品

この箱には、説明書の他に下記部品が入っていますので御確認ください。

品番	品名	個数	備考	品番	品名	個数	備考
①	圧力計※	1	高低圧一体型	⑥	結束バンド	3	
②	ネジ	2	5×12	⑦	のぞき窓	1	
③	配管	1	高圧側 φ2 (赤マーク付)	⑧	取付ゴム	1	
④	配管	1	低圧側 φ4	⑨	配線結束バンド	1	
⑤	パイプカバー	1					

※圧力計の測定範囲：高圧側 0～6MPa 低圧側 0～4MPa

2. 取付要領

(1) ユニットの運転を停止した後、前パネル（下または右下）を取外してください。（図1）

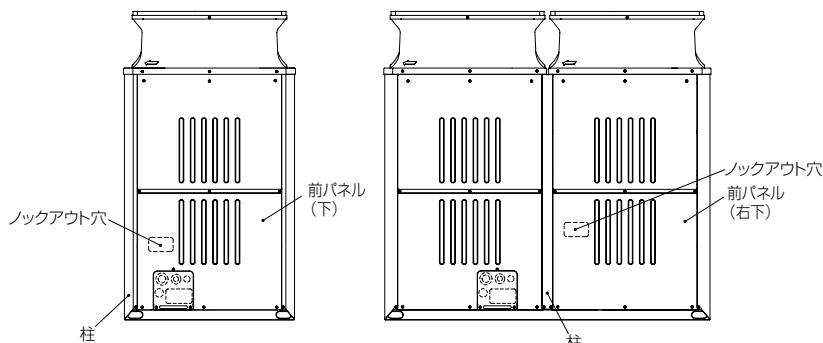
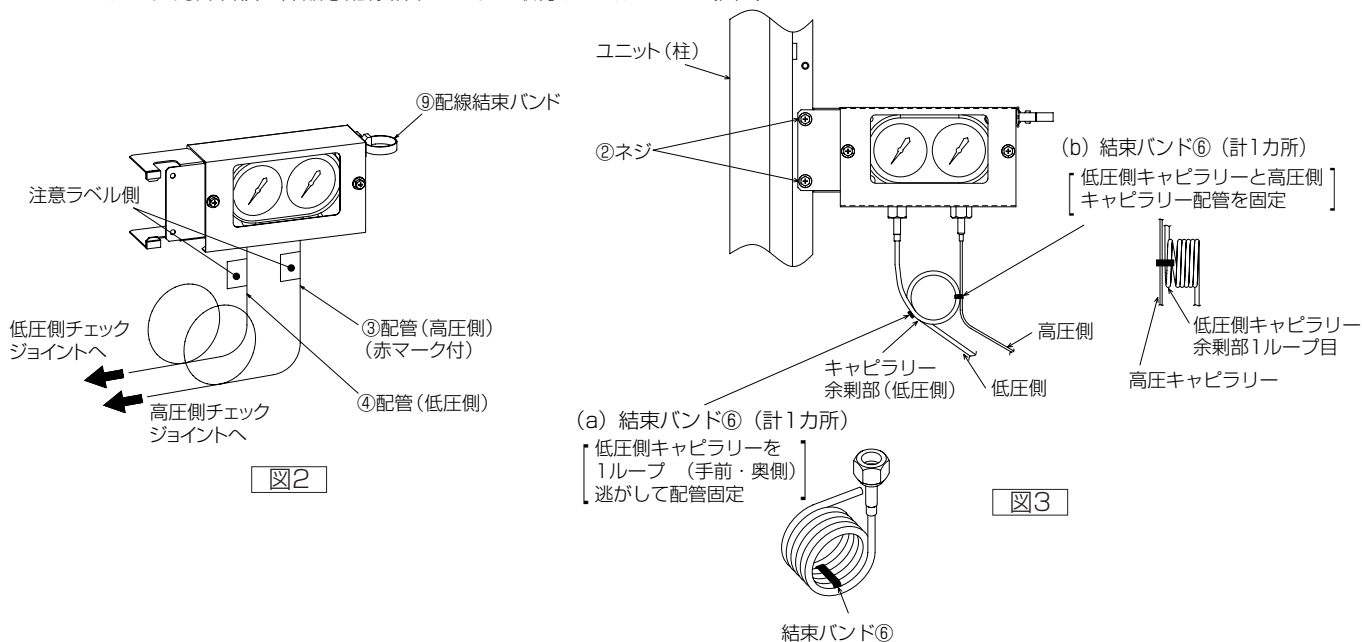


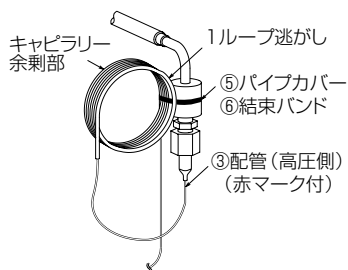
図1

- (2) 圧力計をユニットに固定する前に部品③④配管の注意ラベル側を部品①圧力計にフレア接続してください。
(締付トルク $16 \pm 2 \text{N} \cdot \text{m}$) (図2)
- (3) 部品③④配管の圧力計反対側を高・低圧側のチェックジョイントにフレア接続してください。
この時、ネジ部への浸水防止を目的にチェックジョイントのネジ部にシーリング材 (スリーボンド1110D) を塗布してください。
(締付トルク $20 \pm 2 \text{N} \cdot \text{m}$) (図2,3,4)
- (4) ユニットの柱に部品①圧力計を部品②ネジ (2個) にて固定してください。(図3)
また、圧力計右横に部品⑨配線結束バンドを取付けてください。(図2)



- (5) 低圧側のキャピラリー余剰部を圧力計側とし (a) (b) 部を部品⑥結束バンドで固定してください (計2カ所)。また、圧力計側で、高圧側キャピラリーと低圧側キャピラリー余剰部1ループ目を部品⑥結束バンドにて図を参考に固定してください。(図3)
高圧側はチェックジョイント部に部品⑤パイプカバーを巻き付けて部品③配管のキャピラリー余剰部は1ループ逃がして部品⑥結束バンドで固定してください。チェックジョイントの向きはユニットによって異なります。(図4)

チェックジョイントが下向きの場合



チェックジョイントが横向きの場合

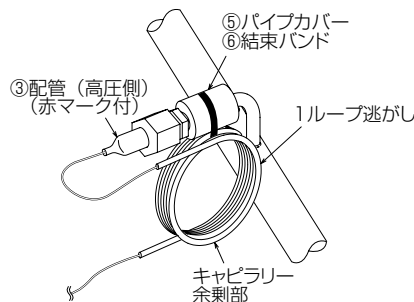


図4

- (6) エアパージを行うには圧力計側のフレアナットを少し緩め、その接続部よりシューツというエア抜き音を確認したら直ちに本締めしてください。ガス漏れのないことを確認してください。
- (7) 前パネル (下または右下) 上部のノックアウト穴を打ち抜いて、部品⑦のぞき窓、部品⑧取付ゴムを取付けてください。(図5)
- (8) 前パネル (下または右下) を取付けてください。

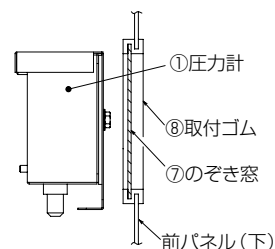


図5

⚠ 注意

- (1) 圧力計の配管が板金のエッジや他の配管に接触しないように注意してください。
- (2) 作業を行う場合には、手袋等の防具を着用し板金のエッジには十分注意してください。
- (3) 圧力計の取付は、ユニットの配管および配線作業後、実施してください。(先に圧力計を付けるとユニットの配管および配線作業のスペースが狭くなります)
- (4) 上記 (5) の作業は確実に行ってください。不備があると配管折損によりガス漏れの原因となります。また、高・低圧側キャピラリー、特に高圧側キャピラリー両端の溶接部を過度に変形させないように注意してください。